

第38回ERL検討会議事メモ

日時：2009年12月9日 14:00-

場所：PF2階会議室

参加者：

PF会場 飛山真理、道園真一郎、仲井浩孝、濁川和幸、生出勝宣、帯名崇、
小林幸則、宮内洋司、本田洋介、高井良太、塩屋達郎、多田野幹人、
中村典雄(ISSP)、山本将博、上田明、芳賀開一、三浦孝子、小林正典、
福田茂樹、島田美帆、阪井寛志、河田洋、佐々木慎一、春日俊夫

JAEA会場 永井良治、西森信行

ISSP会場 工藤博文、渋谷孝

IMS会場 TV会議設備不具合

名大会場

SPring8会場 欠席

広大会場 飯島北斗、正中智慧、増元勇騎

(各報告についてはWeb参照のこと。掲載許可済みの資料を順次掲載しています。)

(以下敬称略)

I. cERLの制御系 (帯名)

- ・制御系ハード・ソフトに関し現在検討中の事項について報告があった。制御系から見ての各機器への要望が出された。各機器から制御系への希望などは制御グループに相談してほしい。
 - ・ネットワークの基本構想が示された。
 - ・東カウンターホール側室の利用に関するワーキンググループを立ち上げる。
- C:cERLコミッションingの手順とそこで利用するビーム診断系の検討、およびその具体的な設計を行う時期に来ている。至急検討すべきだ。
- A:ラティス検討グループ、ビームダイナミクスグループとの話し合いを予定している。
- C:ビーム診断系を検討してくれる方の参加を歓迎する。

II. 新たな条件での放射線遮蔽計算 (芳賀)

- ・最新のcERL配置 (2-loop) に基づき放射線遮蔽を検討した。基本はコンクリート厚200cm、天井150cmとした。全ての地点で $20 \mu\text{S/h}$ 以下とするためには鉄30-50cmあるいは鉛10cmの追加遮蔽が必要である。
- C:合流部の条件が10MeVとなっているのに、主ビームダンプの条件が5MeVとなっている。条件を統一した方が良い。
- A:そうする。
- C:現在のcERLの配置案では、1.5mの遮蔽を描いている。この程度の遮蔽厚でできる運転条件を検討していただきたい。その運転条件を逸脱しないように安全系を整備することを

同時に考えた方がよい。

A:これから考える。

C:両側の壁のシールド増強は可能だが、電子銃周りは複雑でのシールド増強は難しい。全体は薄いですが、局所的に厚いシールドを考えたかどうか。

C:東カウンターホールの側室を周辺監視区域にしてはどうかとの意見があった。

C:側室も一体となっていた方が加速器側としては好都合との意見があった。

Ⅲ. 東カウンターホール作業状況およびスケジュール (坂中)

- ・塗り床工程、外構工事、クレーン作業、電気工事のスケジュール等が示された。

- ・搬入不可時期、クレーン使用の競合に関する事などのアナウンスがあった。

Q:照明が使えるようになるのはいつからか。

A:3月5日以降。それまでは仮電源で照明。業者の投光器を借りることができるかもしれない。

Q:cERL用遮蔽の天井が4mと高いが、低くできないか。

A:コールドボックスの図面から、4mとしている。コールドボックスが低くできれば天井も低くできる。

C:コールドボックスの高さを再調査する。

C:利用後の超純水の行き先は、現在のPS、RI排水系等は複雑なので、この系統から分離し他系統を新設した方がよい。

C:素核研が新規研究開発場所として東カウンターホールを検討している。

Ⅳ. 安全系の担当について (小林幸)

- ・安全系の担当を加速器第7研究系の第5グループ (グループリーダー宮内氏) にお願ひした。また、放射光科学研究系の濁川氏の助力をお願いした。安全系のコンセプト作りもこのグループが担当する。

Ⅴ. 推進室報告 (河田)

- ・補正予算の一部停止とその対応について報告があった。(再)

- ・12月21日にAPSのKwang-Je Kim氏がXFEL-O関連の議論のため来所する。(再)

- ・PALワークショップと上海で行われたAOFの報告があった。

次回 2010年1月20日(水) 14:00 - 第39回 ERL検討会

議題予定

- ・ビーム診断系

- ・安全系のコンセプト

- ・放射線遮蔽

(春日記)